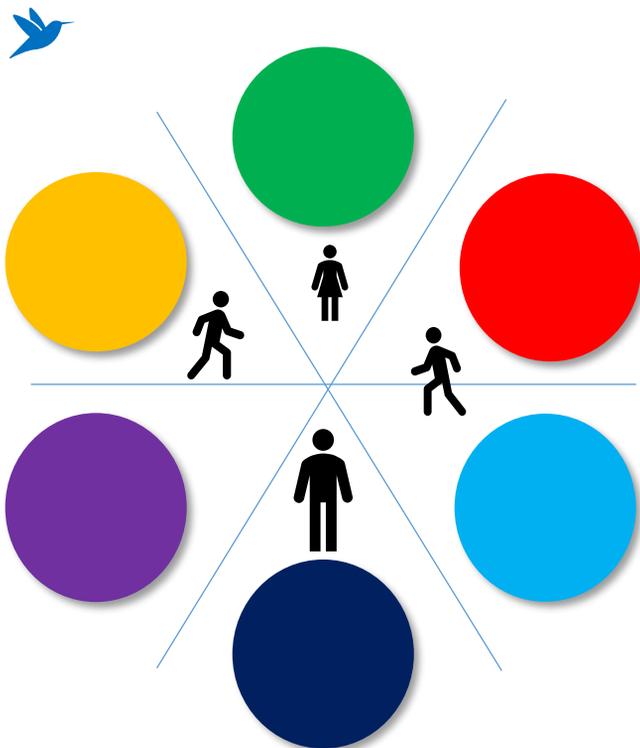


# 銀座の時層と 来街空間



デジタルにアナログに。街を楽しみ、街に学ぶ。  
『ハイライフ的銀座の歩き方』（その2）

1. 「銀座の時層と来る街空間」（序）この連載コラムについて…………… P 1
2. 銀座を訪れる人の現在①「来街者」は一日の中でどのように変化するか…………… P 2  
②横道はてなブレイ■ 「中央区って」…………… P 3  
銀座を訪れる人の現在②「来街者」は何を求めて来るのか…………… P 4  
銀座を訪れる人の現在③「来街者」は銀座にどんなイメージを抱いているのか…………… P 5
3. 「銀座の時層」を読み解く「高級、上品、お洒落」の源泉を明治時代の時層で探る… P 6  
🔍 今月の銀座・今月の時層（年表）…………… P 9  
引用文献・参考文献・参考ウェブサイト…………… P 10

執筆  
公益財団法人ハイライフ研究所  
主任研究員 福與宜治  
令和元年7月作成

## 1. 「銀座の時層と来街空間」(序)この連載コラムについて(再掲)

「高級」「上質」「大人」「お洒落」。多くの人々が「銀座」に抱く暗黙の了解ともいえるイメージです。実際、街を歩けば高級ブランドショップや上質なレストラン、お洒落な街並みが目にとまります。そして、過去から今日に至るまで「銀座」には多くの人々が訪れ、賑わいを醸しだしています。

「谷中銀座」「戸越銀座」、各地にある商店街の名前でもみる「銀座」は、「高級」というよりは、この「賑わい」にあやかっただけのものでしょう。銀座には人をひきつけてやまない魅力があります。

「銀座という『空間』」「銀座に積み重なる『時間』」「銀座を訪れる『人間』」・・・このコラムは「銀座という街の魅力の源泉」に様々な角度から迫るとともに、人々が人生の楽しみのひとつとして「街を歩き、街を楽しみ、街に学ぶ」ための一助ともなることを目指してまいります。

いわば「ハイライフ的・銀座の歩き方」連載コラムです。

### 序「街」を歩くということ

「表通り」があり「裏通り」がある。

「横丁」があり「路地」がある。

昔の建築物があり、未来を予見する  
タテモノがある。風景に身を任せ、  
あるいは目標に向かって歩く。

気ままに歩いたとしても

それは選択の連続だ。選ばなかった道  
の向こう側には何があるのか。

何気なく見過ごしてきたものの中に、  
人の営みの歴史を見つけたとき

自らのこれまで歩んだ足跡と、

前に広がる明日（ミライ）の光景に、  
人は、いつのまにか思いを馳せる。

街を歩くことは人生に似ている。

そして銀座が語りかけることも。



### ＜アプローチ＞

以下の調査方法、構成のもとに各回考察を加えてまいります。

#### 1. 銀座を訪れる人の現在をデジタルに知る。

ハイライフ研究所が「銀座研究」の一環として実施した「銀座来街者の行動特性と属性分析」の一部を取り上げ、考察を加えます。具体的には「モバイル空間統計（NTTドコモ）」を活用し「銀座来街者の動線把握」と「追跡アンケート」結果から銀座を訪れる人の現在をみます。「銀座来街者の動線把握」は、銀座を中心とした地域を約250mメッシュで区切った街区の回遊パターンを分析したものです。

#### 2. 銀座を歩き気付きの種をアナログに収集する。

テーマ毎のフィールドを実際に歩き「銀座の魅力」を構成する要素をみつけ記録し考察します。いわば虫の視点で「銀座ならではの」探します。

#### 3. 銀座の歴史を知り「銀座の時層」を読み解く。

1と2を空間軸アプローチから導き出したテーマをもとに、ここではその時間軸を追いかけてながら銀座の魅力を掘り下げます。

#### 4. 街の動きから特定の世代と街の関係を想う。

例えば「日本初、銀座で歩行者天国が始まったとき団塊の世代は20代前半だった」というように世代によりエポックな街の変化は異なります。テーマに即して特定の世代を取り上げ年表を辿りながら「街と人の関係」を推量します。

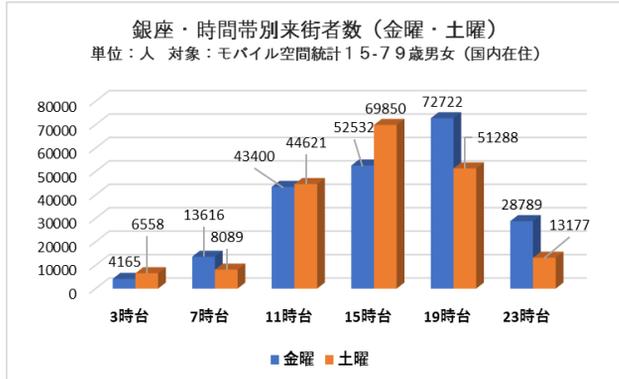
以上のアプローチを織り交ぜながら「銀座という街の魅力の源泉」を探ってまいります。



## 2. 銀座を訪れる人の現在

### ①「来街者」は一日の中でどのように変化するのか

ここではハイライフ研究所「銀座研究」で実施の調査「銀座来街者の行動特性と属性分析」の一部を取り上げます。今回は銀座「滞在者」全体（国内在住）をみました。今回はその内「居住者」と「勤務者」を除いた「来街者」の週・時間別エリア内滞人口（金曜・土曜）から平日と週末の銀座の人の動きをみていきます（調査概要は連載第1回のP5を参照下さい）。



#### 1. 時間帯別来街者数

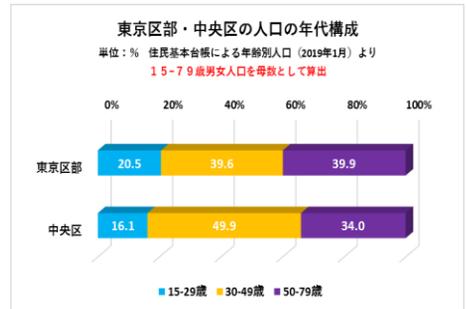
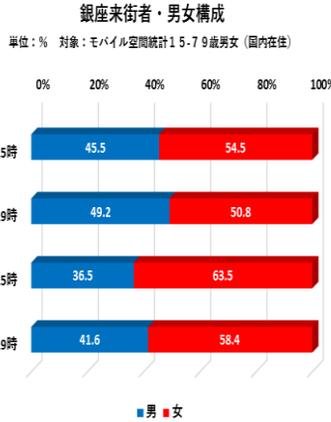
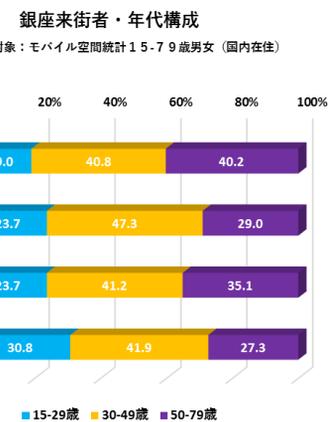
来街者数を曜日×時間でみたとき、最も来街者人口が多いのは「金曜19時台」、次が「土曜15時台」となります。金曜日の夜は多くの人々が楽しみ（食事やお酒など）を求めてこの街を訪れる様子がうかがえます。

（注：測定時、調査エリア内に滞在する来街者は戶外、建物内を問わずカウントします）

#### 2. 年代構成・男女構成

金曜、土曜各15時台と19時台の来街者男女・年代構成をみましょう。男女構成は女性が常に男性を上回りますが「金曜19時台」には、ほぼ半々と拮抗します。女性比率が最も高くなるのは「土曜15時台」です。

年代構成では30・40代が常に多数派、特に「金曜19時台」は47%とほぼ半数を占めます。「土曜19時台」は「15-29歳」が約3割と増え「50-79歳」をやや上回ります。「金曜15時台」は逆に「50-79歳」の構成比が増えます。金曜の夜は30・40代の男性、土曜の夜は若者がそれぞれ銀座を楽しみ、土曜の午後には女性がショッピングを楽しむといった光景が目に見えます。（参考：下記グラフは東京区部と中央区の15-79歳年齢構成比）



#### 3. 「居住」市区・「勤務」市区

来街者居住地区1-3位を占めるのは中央（銀座居住者除く）、江東、世田谷。港と大田が続きます。江東と港は隣接区、世田谷は港、渋谷、目黒を隔てた場所に位置し、23区の中で最大人口を誇り、成城などの高級住宅街をイメージさせる区です。

一方、来街勤務者の勤務地に目を向けると隣接の千代田、港、と中央（銀座勤務除く）が上位を占め、特に金曜19時来街者はこの3区の勤務者で約半数を占めるほどになります。

中央区居住者、勤務者ともに来街者上位を占めるのは当然と思われるかもしれませんが、近隣で働く人にも住む人にも好まれる銀座の街柄を愛（め）で歩くのも一興です。

#### ■銀座来街者「居住」市区ランキング上位

	銀座 曜日×時間別来街者			
	①金15時	②金19時	③土15時	④土19時
中央区※	2496	3434	3072	2686
世田谷区	2182	3070	2427	1911
江東区	2083	3257	3093	2352
港区	1765	2795	2376	1978
大田区	1586	2483	2395	1790
江戸川区	1373	2048	1919	1411
杉並区	1238	1949	1456	1135
練馬区	1206	1630	1395	975
品川区	1198	1880	1827	1321
足立区	1126	1595	1485	1079
市川市	2848	1503	1400	936
目黒区	2715	1463	1031	903
新宿区	2578	1464	1175	997
板橋区	2501	1466	1371	971
葛飾区	817	1314	1255	886
文京区	737	1332	1248	1008
墨田区	771	1302	1145	898
上位合計	24542	27481	24571	23237
来街者計	52532	72722	69850	51288
上位占有	46.7	37.8	35.2	45.3
1-3位占有	12.9	13.4	12.3	13.7

青色は上位1-2位にランクした居住市区 ※中央区は銀座1-8丁目勤務除く

#### ■銀座来街者「勤務」市区ランキング上位

	銀座 曜日×時間別来街者			
	①金15時	②金19時	③土15時	④土19時
中央区※	6132	10286	4413	3412
港区	5623	11633	6494	5194
千代田区	4792	12671	6656	5206
新宿区	1724	2333	2481	1908
江東区	1705	3920	2125	1526
渋谷区	1494	2058	1889	1451
品川区	1043	1995	1555	1127
台東区	715	908	784	621
大田区	657	1048	927	729
豊島区	616	728	791	556
文京区	537	1055	1019	759
世田谷区	474	500	665	515
墨田区	453	578	504	401
足立区	300	264	347	275
目黒区	275	406	365	336
江戸川区	187	345	385	346
浦安市	196	267	273	200
上位合計	26923	50995	31673	24562
来街者計	52532	72722	69850	51288
上位占有	51.3	70.1	45.3	47.9
1-3位占有	22.4	47.6	25.1	26.9

青色は上位1-2位にランクした居住市区 ※中央区は銀座1-8丁目勤務除く

## ② 横道はてなブレイク

【東京都区部の人口】

	総人口	前年人口増減	増減率
東京都総数	13,740,732	103,384	0.76
区部合計	9,486,618	90,023	0.96
1 世田谷区	908,907	8,800	0.98
2 練馬区	732,433	3,954	0.54
3 大田区	729,534	6,193	0.86
4 江戸川区	698,031	2,665	0.38
5 足立区	688,512	3,065	0.45
6 杉並区	569,132	4,543	0.82
7 板橋区	566,890	5,177	0.92
8 江東区	518,479	5,282	1.03
9 葛飾区	462,591	2,168	0.47
10 品川区	394,700	7,078	1.83
11 北区	351,976	3,946	1.13
12 新宿区	346,162	3,865	1.13
13 中野区	331,658	2,975	0.91
14 豊島区	289,508	2,397	0.83
15 目黒区	279,342	2,558	0.92
16 墨田区	271,859	2,961	1.10
17 港区	257,426	3,787	1.49
18 渋谷区	226,594	1,914	0.85
19 文京区	221,489	4,070	1.87
20 荒川区	215,966	1,322	0.62
21 台東区	199,292	3,158	1.61
22 中央区	162,502	5,679	3.62
23 千代田区	63,635	2,366	3.86

平成31年1月 住民基本台帳

【中央区の人口】

	総人口	前年人口増減
中央区総数	164,383	4,553
月島地域	74,522	1,188
日本橋地域	50,555	2,041
京橋地域	39,306	1,324
(町別人口)		
勝どき	27,189	月島
月島	16,289	月島
佃	14,931	月島
晴海	14,543	月島
日本橋浜町	11,320	日本橋
新川	9,071	京橋
築地	8,199	京橋
湊	6,311	京橋
東日本橋	5,614	日本橋
日本橋人形町	5,271	日本橋
日本橋蛸蛸町	5,202	日本橋
日本橋箱崎町	3,762	日本橋
銀座	3,627	京橋
八丁堀	3,505	京橋
明石町	3,468	京橋
日本橋堀留町	2,865	日本橋
入船	2,579	京橋
日本橋中洲	2,484	日本橋
新富	2,227	京橋
その他	15,926	

令和元年5月 住民基本台帳

「はてなブレイク」は少し横道にそれつつ「素朴な疑問」を解消するコーナーです。

### ○今回の素朴な疑問○

「銀座来街者の中で中央区在住者が上位にランキングされるのは近隣在住という意味ではわかるが、そもそも中央区ってどんな町があってどこにどの位の人が住んでいるの？」

東京に住んでいても、ビジネス街・商業地域という印象が強く「私、中央区在住です」と言われても「えっ！どこに？」と思う人も多いのではないのでしょうか。そこで少し横道に逸れつつも、中央区とその町別人口に注目いたしました。

### 1. 人口は東京都23区の中で22位。しかし増加率では2位。

「東京都区部の人口」をみると明らかなように23区内では2番目に人口の少ない区が中央区です。ちなみに面積（10.21km<sup>2</sup>）も2番目に少ない。市部では住みたい街によくランキングされる吉祥寺のある武蔵野市が人口（146,399人）、面積（10.98 km<sup>2</sup>）で近い存在となります。ちなみに人口1位の世田谷区は面積（58.05 km<sup>2</sup>）も大きく大田区に次ぐ広さです。しかし中央区も侮れません。人口増加率（前年比）では千代田区に次ぎ2番目、増加数でも世田谷、品川、大田に次いで4位の注目エリアなのです。中央区の人口は昭和28年の約17万人をピークに減少に転じ、平成9年には約7万人まで落ち込みました。実に現在の半分以下です。その後は高層マンションなどの住宅開発により転入が増え、人口が増加しているのです。「中央区の年齢階級別人口構成比」をみると生産年齢人口が約7割を占めています。高齢者人口も増加傾向にあるものの生産年齢人口や年少人口の増加を受け、その割合は低下しているようです。銀座で子供連れの若い夫婦をみかけたら隣町の家族かなと想像を膨らますのも楽しい一瞬です。

### 2. 人口が多い勝どき、月島、佃などの湾岸地域（月島地区）。

中央区の住民基本台帳（左下表）に準じると区内は銀座のある京橋地域、日本橋地域、湾岸の月島地域に分かれます。人口が最も多いのは月島地域です。町別人口をみても月島地域に属する勝どき、月島、佃、晴海が上位を占めています。この地域を歩くと高層マンションが林立しており、そのことが実感できます。中央区では「近年のマンション開発等による人口増加傾向や、東京オリンピック・パラリンピック競技大会終了後の晴海地区における住宅開発による人口増加の見込みなどを反映させ（中略）独自の人口推計を行いました（「中央区基本計画2018」より）」。推計結果によると今後も転入超過による増加が続き2028年には211,309人に達し、地域別では今後も新規住宅開発が進む月島地域の人口が構成比で50%を超えると見込んでいるとのこと。隣町の人口増加がもたらす銀座の変化への予兆に眼を凝らすのも街歩きのお楽しみに加えたいところです。



写真1  
中央大橋から見える佃、月島  
方面の高層マンション  
（新川二丁目）

中央区の地域区分  
（上から日本橋地区・  
京橋地区・月島地区）

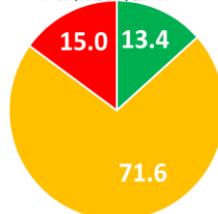
東日本橋  
人形町  
日本橋

銀座 京橋  
築地 明石町

勝どき  
月島 佃  
晴海

中央区の年齢階級別人口構成比

n=164,631人 単位：%



● 年少人口 (0-14歳) ● 生産年齢人口 (15-64歳) ● 老年人口 (65歳以上)

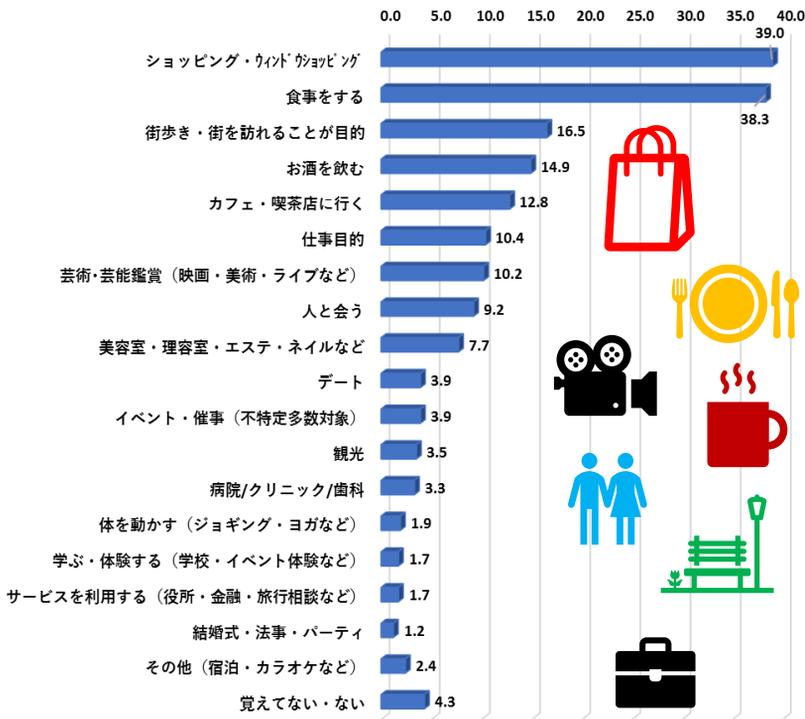
## 2. 銀座を訪れる人の現在

## ②「来街者」は何を求めて来るのか

前項では平日と週末、午後と夜の時間を比べながら来街者特性を探りました。銀座＝大人の街という認識から50代以上の来街者の多さを予想していました。しかし時間による差こそあれ23区人口の年代構成とさほど大きな差はなく様々な層が訪れています。では、どのような目的で人は銀座を訪れるのかみましょう。

銀座来街者の来街目的（複数回答）

n = 745（ココリサ・15-69歳男女） 単位：%



## 1. 来街目的

二大目的と呼べるのが「ショッピング・ウインドウショッピング」と「食事」です。対比のために新宿来街者の目的も同様に調べています。詳しくは紹介しませんが、二つの繁華街を比べた時、目的に大差はみられず、銀座で「街歩き」がやや高い（新宿は8.2%）のが目をひく程度です。確かに街並みを楽しむ要素は銀座のほうがありそうです。それぞれの街へ行く目的を特徴付ける差は「〇〇な食事」と「△△な食事」の差、つまり雰囲気であったり、誰と何のために食べるかなど質的な差といえましょう。ちなみに銀座の来街者が実際に訪れた商業施設（飲食店除く）のランキングは以下の通りです。

- 1位 デパート
- 2位 その他アパレル・ファッション店
- 3位 ブランドショップ
- 4位 アンテナショップ・ショールーム
- 5位 セレクトショップ

2位の中には、複合商業施設やユニクロなどのファストファッションが含まれます。ここでの注目はアンテナショップです。銀座・有楽町エリアには地方自治体のアンテナショップが多く出店しています。銀座を訪れ、これらをハシゴすれば各地の名産品をワンストップ（ひとつの街）で楽しむことができるのも街の魅力の一つです。

## 2. 購入商品

「ショッピング」目的で銀座を訪れる人が多いことがわかりましたが実際に何を買っているのでしょうか。

銀座を訪れて買物をした4割弱の人は「食品・食材」を、4人に1人が「洋服」を、2割弱の人が「土産・贈答品」を購入しています。

「食品・食材」というとデパ地下で夕飯の惣菜や老舗の和菓子、話題のお店の和洋菓子を買う、アンテナショップで日本各地の名産品を買う、などが思い浮かびます。最近では2019年4月開店「銀座3丁目・無印良品」の野菜販売や、行列の出来る食パン専門店銀座1丁目の「セントル・ザ・ベーカリー」（写真2・3）など新たな話題を提供する店も誕生しています。

「洋服」はファストファッションや海外ブランドショップ旗艦店の集積、新たな大型商業施設、老舗百貨店、小さくてもきらりと光る銀座の老舗洋品店など様々な業態がしのぎを削り、美的装飾を施したショーウィンドウの充実振りなど、回遊するだけでもファッションを楽しめる街の魅力が溢れています。

銀座来街者の購入商品（複数回答）

n = 233（ココリサ・15-69歳商品購入者男女） 単位：%

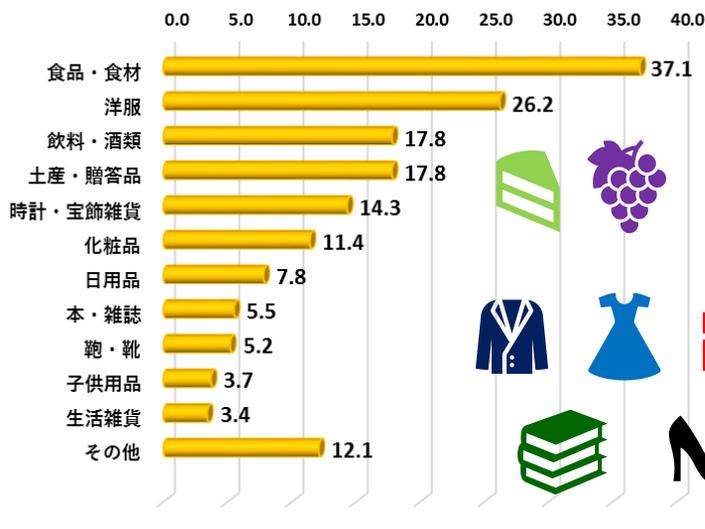


写真2



写真3

写真2  
セントル・ザ・ベーカリー  
（銀座1丁目）

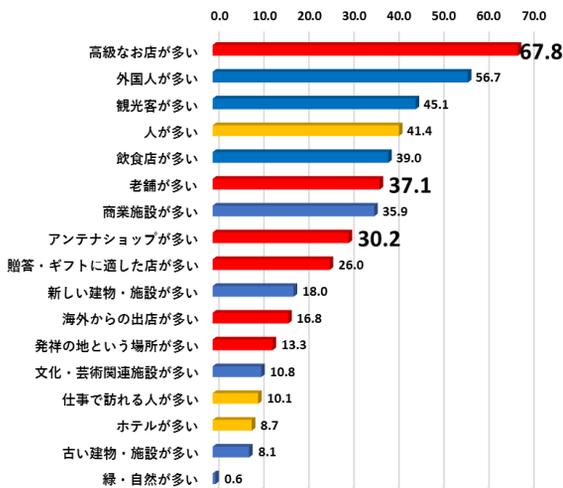
写真3  
行列する人へ水のサービス

## 2. 銀座を訪れる人の現在

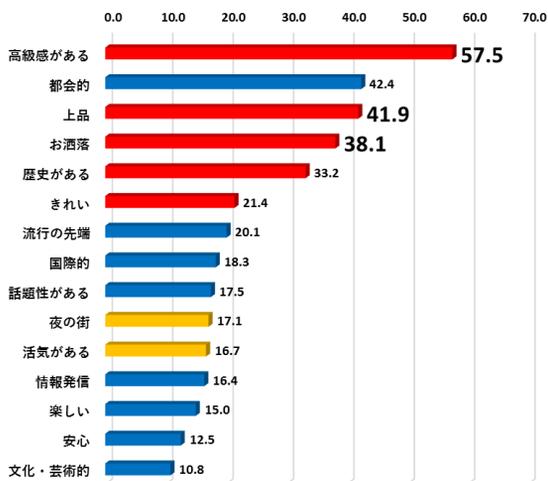
## ③「来街者」は銀座にどんなイメージを抱いているのか

次に銀座を訪れる人がこの街に抱いている印象を①機能イメージ②情緒イメージ③人イメージという3つの切り口からみていきます。①は街の実質的な価値や事実につながるイメージ、②は街の持つ雰囲気など心理的価値につながるイメージ、③は誰向けの街と感じているのかを示すイメージとご理解下さい。

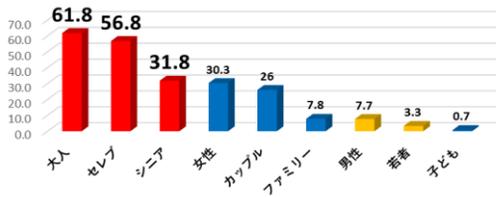
銀座来街者の銀座・機能イメージ (〇〇が多い)

n=745 (コリサ15-69歳男女) 単位: %  
選択肢 34 提示の上位 (複数回答)

銀座来街者の銀座・情緒イメージ

n=745 (コリサ15-69歳男女) 単位: %  
選択肢 4 1 提示の上位 (複数回答)

銀座来街者の銀座・人イメージ (△△向けの街)

n=745 (コリサ15-69歳男女) 単位: %  
選択肢 1 1 提示の上位 (複数回答)

## ーグラフの見方ー

データ詳細は略しますが同一の内容の調査「新宿来街者の新宿イメージ」と対比し、銀座のイメージを鮮明化するために棒グラフの色分けをしました。

■銀座の数値が新宿より20%以上高い  
 ■銀座の数値が新宿より高いが20%未満  
 ■新宿の数値が銀座を上回る  
 ※調査では各来街者を対象にその街のイメージを個別に聞いているものであり両者を比較しての回答ではなく絶対評価です。ご注意ください。

## 1. 銀座は街に何が多いイメージ?

銀座という街を特徴付ける機能イメージ(〇〇が多い)としては、高級なお店・老舗・アンテナショップ・贈答やギフトに適した店・海外からの出店・発祥地といったイメージ項目が新宿との対比でも際立って高くなっています。2018年に訪日外国人が3千万人を超え銀座にも多くの外国人観光客が訪れています。銀座の「外国人が多い」というイメージは実態を伴ってますます強くなっていくと思われます。今日も銀座通りの歩道は外国人たちで溢れています。

## 2. 銀座のイメージって何?

情緒イメージでは前項の、高級店が多い、と呼応する形で、高級感があると感じる人が最も多く、上品・お洒落・歴史がある・きれい、などが続きます。きれい、は街並みからの連想を思わせる言葉です。銀座通連合会は国交省東京国道事務所とともに「緑陰と憩いの場所づくり、美しい景観づくり」の一環で銀座通りの街路樹を従来のイチイから高木のカツラの木に植え替えました。春は若葉、夏は緑陰、秋は黄葉、冬は裸の樹形を楽しめるとのこと。こうした地元の取り組みが銀座のきれいな景観を支えているのでしょう。機能イメージで「緑、自然が多い」という回答は僅かでしたが街は人の営みと共に変化する生き物。今後、人々の印象を塗り替えていくかもしれません。

## 3. 銀座はどんな人向けの街?

「大人向け・セレブ向けの街、銀座」と集約するとハードルの高い街のようにも感じますが、街を訪れる人たちはそんな雰囲気を味わい、その中に身を置き、時に自ら演じる事ができる楽しさをこの街に感じているのかもしれません。仕事の用件で訪れた会社員を少し得した気分させ、買物シニアを華やいだ気分で作らせる。そんな趣が銀座にはあります。

写真4  
沖縄県アンテナショップ  
「わたし」(銀座1丁目)写真5  
海外ブランド旗艦店  
「シャル銀座」  
(銀座3丁目)写真6-7  
銀座通りの街路樹カツラの木  
(銀座3丁目から見た景観)

### 3. 「銀座の時層」を読み解く 「高級、上品、お洒落」の源泉を明治時代の時層で探る

「銀座は高級・上品・お洒落な街」。「想定内の結果」と感じた方は多いと思います。多くの人が共通に抱く銀座のイメージはどのような時間の堆積の中で生まれ、どのような痕跡として今に現れているのか……。今回はそんな視点から時代を遡り、明治時代の銀座の時層をエポックな出来事を通して掘り起こします。

#### 1. 明治元年（1868年）

##### 築地に外国人居留地が開設された

明治元年（1868年）、銀座に隣接した築地（現在の明石町地区）に外国人居留地ができました。開国後の日本が積極的に欧米文化受け入れ近代化を進める一環で設置されたもので、ここには住居の他、キリスト教・宣教師教会や病院（現在の聖路加国際病院）、学校、外国公館などが建てられて、西洋文化受発信の役割を果たしました。学校では女子学院、立教学院他、数多くの大学の発祥の地となっています。1899年の条約改正に伴い居留地は廃止されました。

📍世はまさに文明開化期。いわば流行の先端たる異国文化を身近に感じる環境に銀座はありました。居留地そのものは閉鎖された空間かもしれませんが、服装や身なりも含め新たな文化の送り手や、その影響を受けた人々の往来が時代の先端たる銀座の雰囲気醸成して「銀座はお洒落」の足場を築く役割を果たしたと想像させます。



写真8



写真9



写真14



写真10



写真11



写真15



写真12



写真13

写真8～11 順に立教学院、蘭学事始、青山学院、雙葉学園各発祥の地の記念碑 写真14 聖路加国際病院 写真15 築地カトリック教会 写真12 13 居留地煉瓦塀の一部が保存されている明石小学校・居留地跡碑（明石町）

#### 2. 明治2年（1869年）

##### 通称銀座からこの年、町名「銀座」となる

銀貨鑄造所としての銀座役所は寛政12年（1800年）蛸殻町（現在の人形町）付近に移転しましたが、当時の名残りで現在の銀座二丁目付近の町名「新両替町」と通称としての「銀座」は残っていました。それが、明治2年（1869年）造幣局設置による『銀座』の廃止、江戸町名改正により「新両替町」とその周辺の地名がまず「銀座一丁目から四丁目」となりました。明治5年の地図によると現在の「銀座」地区には以下のような地名が混在していたようです。その町名には南紺屋町、弓町、新着町、飴屋町、弥左衛門町、三十間堀、尾張町、南鍋町、元数奇屋町、竹川町、南京六町、出雲町、日吉町、加賀町、八官町などがあります。昭和5年（1930年）銀座五丁目から八丁目、銀座西一丁目から八丁目への町名変更、その後の木挽町編入などを経て1969年に現在の「銀座一～八丁目」となりました。

📍江戸時代、銀座が職人の町であったことを忍ばせる町名が失われたことは残念である一方、「銀座」への町名統一がなかったらこの街の印象も異なるものになっていたでしょう。「今晚、新両替町で食事をしない？」ってな具合です。本来の意味を超え「銀」という高貴で上品な華やぎのある言葉と人々が集う雰囲気醸成する「座」の二文字を配したネーミングがまさに名は体を現し「銀座は高級で上品」というイメージを人々が瞬時に共有できる効果を生み出しています。



写真16 銀貨鑄造所（銀座役所）所在地の現在。ティファニー銀座ビルの位置に相当する。（銀座2丁目）



写真17 銀座発祥の地碑（銀座2丁目）



写真18 銀座4丁目交差点から5丁目方面を臨む。銀座5丁目付近は明治期は未だ尾張町だった。



写真19 銀座6丁目にて平成29年開業した商業施設GINZA SIX。この周辺も明治期は尾張町だった。

## 3. 明治5年（1872年）

## 新橋停車場完成 新橋-横浜間に日本初の鉄道開業

銀座八丁目の端にある博品館から240m、歩いて4分程度のところに「旧新橋停車場跡」の史跡と当時の駅舎を再現した施設があります。新橋-横浜間に開業した鉄道の終着駅がここにありました。横浜は安政6年（1859年）、日米修好通商条約に基づき開港、外国人が訪れる玄関であり、居留地（山手居留地）も築地より早くに設置されていたことで欧米の文化という点では東京よりも先行していました。銀座公式ウェブサイトでのGINZA OFFICIAL「最先端のモノと商人の集まる町」によると「新橋駅の駅前商店街ともいえる銀座には、西欧からの輸入商品や新しい商品を扱う商人たちが次々と店を開きました。（中略）進取の気性に富んだ商人たちは店先にショーウィンドウを設け（中略）工夫をし、新しい商売の方法を切り開いていきました」とあります。銀座六丁目にある「大和屋シャツ店」（創業1876年）は横浜で開業したオーダーワイシャツ店です。外国船の乗客から譲った衣服の名がワイシャツ（実はホワイトシャツ）と聞こえ、そう名付けたエピソードが有名です。

当時の先端、横浜からのヒトの流れ、モノの流れ。ここでも銀座は地の利を得ます。ショーウィンドウに象徴される新しい時代の風を受けた街の記憶が「銀座は高級、銀座はお洒落」を育みます。

## 4. 明治10年（1877年）

## 西洋風街並みの「銀座煉瓦街」が完成する

明治5年（1872年）、和田倉門内旧会津藩邸（現皇居外苑）から出火。火災は強風の中、丸の内、銀座、築地一帯を焼失させます。これを契機に政府は銀座を火災や延焼を防ぐ耐火構造の西洋風街並み「煉瓦街」に改造することを計画します。都市計画の設計はイギリス人建築家トーマス・ウォルトス指導のもとに行われました。計画は、街区を碁盤の目に整え道幅を広くすることや煉瓦を使った不燃性家屋の建築により市街を建設することでした。広げた道路は車道と歩道に分離、街路樹や街灯（ガス灯）も整備されました。銀座通りはこのとき27mに拡幅、現在に至っています。煉瓦家屋はショーシアン様式というもので、店を数軒連ねる連屋形式、二階バルコニーとそれを支える列柱、歩廊などを特徴とし街並みの統一感を演出しました。しかし当初は、高額な家賃、建物の湿気が災いし空き家も多かったとの事です。銀座煉瓦街は皮肉にも関東大震災で焼失してしまいます。銀座煉瓦街は「明治政府の威信をかけた（中略）東京の都市改造である市区改正計画を先取りした実験的な試みとも見て取れる」（岡本哲志著「銀座四百年・都市空間の歴史」P89）ものであり、銀座が選ばれたことには、新橋停車場、築地居留地、日本橋などに囲まれた特別な場所である銀座を「文明開化の象徴」として可視化したかった意思をうかがわせます。

煉瓦街は失われても、街路など受け継がれた銀座の街並みの美しさに遺したものは大きいことがわかります。文明開化における「先端的」な街づくりに始まり、銀座はその時の層を積み重ね「洗練」へと向かい「上品」さを醸すに至る。と、まとめさせていただきます。



写真20 旧新橋停車場の駅舎外観を同じ場所に再現した鉄道歴史展示室。後ろに写っているのは隣接している汐留シティセンタービル。レトロと現代、対照的な建物が織り成す光景だ。（東新橋）



写真21 駅舎玄関遺構には当時、階段に使われた切石が残る。



写真22 ホームの一部も再現されている。



写真23 銀座8丁目博品館付近から銀座通りを臨む。背にした方向に歩いてすぐの所に新橋停車場はあった。



写真24 銀座煉瓦街の記念碑。ガス灯も復元。右は京橋の親柱。（銀座1丁目先）



写真25 24煉瓦銀座の碑の一部。



写真26 今春通り・煉瓦遺構の碑「銀座は日本に二箇所しか建設されなかったきわめて貴重な煉瓦街の一つです」と記してある。（銀座8丁目）



写真27 電気灯柱記念碑。明治15年にガス灯に替わって電気灯（アーク灯）が銀座に点灯。日本における電灯の始まりといわれる。（銀座2丁目）

5. 明治5年・10年・21年

銀座煉瓦街に新聞社が集中し情報発信地となった

明治期の銀座には新聞社の集中がみられました。現在の全国紙、毎日新聞（当時、東京日日新聞）、読売新聞、朝日新聞のいずれもが銀座に進出しました。見出しに掲げた年はそれぞれが銀座に移転した年を示します。例えば読売新聞は横浜で設立された後、虎ノ門を経て銀座一丁目に進出、大正期に三丁目（現在のマロニエゲート）へ、戦後には有楽町（現在の読売会館）へと社屋を移しています（現在は大手町）。ジャーナリストや文化人が集い上流階級が行き交い、眼に新しい舶来品が集まる銀座は情報発信地となるとともに自ら全国に知られる存在となります。こうした人の動きは銀座のレストランや酒場などの発展とも無関係ではないでしょう。

6. 明治44年（1911年）

芸術家、文化人集うカフェプランタン開業

明治44年（1911年）に日本で初めてカフェを名乗ったのが銀座の「カフェプランタン」でした。この店は洋画家の松山省三がパリのカフェをモデルと同じく画家の平岡権八郎と開いた店です。劇作家の小山内薫が「春」を意味する「プランタン」と命名しました。コーヒーやリキュールを飲みながら永井荷風、黒田清輝などの作家や画家、文化人が集い語り合う社交サロンとして賑わったとのこと。その後、カフェは様々な業態に分かれていきます。

銀座を語るとき文化人や文化の香りを外すことができません。彼らは銀座を広める役割も果たしました。「銀座は高級、上品、お洒落」の文脈と関連付けると表層的なだけではない精神性や洒脱さがそれぞれのイメージの中に込められているような気がします。

7. 明治時代を通して

銀座の多くの老舗がこの時期に創業する

江戸時代、老舗は商業地日本橋に集中していました。銀座は職人の町としての色合いが強く町の賑わいも日本橋には劣っていたといわれています。明治に入り京都の「鳩居堂」が宮中御用を務める為に銀座に進出するなどの動きがある一方で銀座で創業、または近隣の町で創業し銀座に移転し、今につながる老舗が多く生れました。その一部を挙げると次のようになります。明治2年「木村屋総本店」(パソ) 新橋創業、翌年移転 明治2年「ギンザサエグサ」築地居留地創業、8年移転 明治5年「資生堂」(化粧品) 処方調剤薬局として銀座創業 明治7年「タニザワ」(鞆) 人形町創業 明治23年移転 明治8年 東芝の創立者、前身「田中製造所」創業 明治12年「天賞堂」(宝飾品) 創業 明治14年「服部時計店(和光)」木挽町で創業 (銀座四丁目「和光本館」は昭和7年建設) 明治26年「ミキモト」(真珠) 創業 明治32年銀座出店 また飲食店に目を向けるとボークカツレツを考案した洋食「煉瓦亭」、日本初のピヤホール「ライオン」、レストラン「資生堂パーラー」なども明治期に創業しました。

紹介していませんが和装小物の店を含め化粧品、洋服、宝飾品など「お洒落」分野の老舗も目立ちます。



写真28



写真29

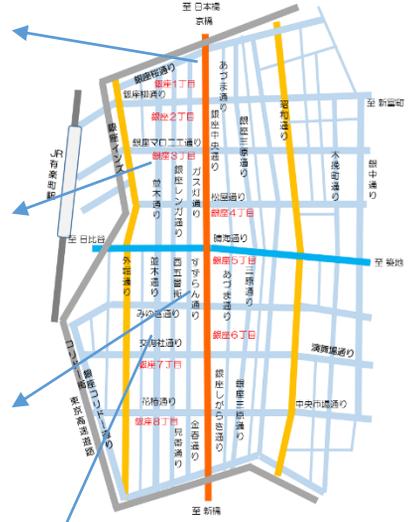


写真30



写真31

写真28 明治10年年読売新聞が移転した付近の現在。(銀座1丁目)  
写真29 大正12年年読売新聞が移転した西紺屋町。現在、読売は事業主として商業施設のマロニエゲートを展開。(銀座3丁目)



←写真30 東京日日新聞のあった尾張町付近の現在(銀座5丁目)



写真32 現在の東京朝日ビルディングにはハイアットセントリック銀座東京とロックス、ルイヴィトンが入っている



写真33 資生堂パーラー (銀座8丁目)



写真34 木村屋本店 (銀座4丁目)



写真35-36-37左から天賞堂・ミキモト(銀座4丁目)・タニザワ(1丁目)のSINCE表示)



写真38 ギンザのサエグサ (銀座4丁目)



写真39-40 鳩居堂の壁には京都での創業年と銀座出店年が。(銀座5丁目)

## 🔍 今月の銀座



表紙に掲げたシンボルは、6つの円に「銀座の多彩な魅力」3つの線の交差に「銀座の空間と時間のつながり」、4人のヒトに行き交う人々の営みをこめました。

毎回、ひとつのテーマで魅力を構成する要素をピックアップしています。今回は「高級・上品・お洒落。その源泉」です。居留地や横浜から訪れる外国人、銀座での創業や他の地からの進出を目論む商人、ジャーナリストや芸術家、文化人など異質な人たちが集まりました。新聞社が集まった理由には官庁街、商業の日本橋に隣接した地の利もあったでしょう。上流階級が住む当時の山の手からの顧客の流れもあったでしょう。こうした人々が行き交い、化学反応を起こす中で銀座は磨かれていったのではないのでしょうか。舶来品というだけで先端、高級の称号を得られた時代において、銀座はそれだけでは納得しない人々の知性や営みを通じて「先端」は『洗練』へ、『高級』は『一級』や『上品』なものへと磨かれ、『モダン』で『お洒落』な唯一無二のパーソナリティを獲得していったのだと感じました。

## 🔍 今月の時層（年表）

毎回ひとつのテーマにちなんで年表を掲載します。第二回は主に「『銀座の時層』を読み解く」で取り上げた事柄を追いつながら明治期の日本と銀座の動きを紹介します。「銀座の時層」をお楽しみ下さい。

注：①から⑧の丸数字は関連する銀座の丁目

時代	年	銀座の動き	
		政治・経済・社会	文化・芸術・街の動き
明治元年	1868年	鳥羽伏見の戦い 戊辰戦争 江戸幕府消滅	徳川慶喜、上野・寛永寺に移る
明治2年	1869年	造幣局設置 金座、銀座が廃止に 東京を首都とする	徳川慶喜、上野・寛永寺に移る
明治5年	1872年	富岡製糸場操業開始 田畑代売買禁止令 廃止	東京初の西洋料理店「精養軒」開店
明治6年	1873年	太陽曆採用 キリスト教禁教の解禁	和門倉門から失火、銀座一帯に大火襲う
明治7年	1874年	板垣退助ら自由民権運動始まる	新市街地建設で銀座に煉瓦街（完成10年）
明治8年	1875年	江華島事件（李氏朝鮮との戦いに勝利）	築地外国人居留地に聖路加国際病院の前身設立
明治10年	1877年	西南戦争 政府勝利	上野で「第1回内国勲業博覧会」開催
明治12年	1879年	琉球処分 沖縄県を設置	金杉橋-京橋ガス埋設 銀座に「ガス灯」設置
明治13年	1880年	集会条例 自由民権運動弾圧	芸大に現存する東京最古の煉瓦建築竣工
明治14年	1881年	国会開設の詔	銀座に「アーク灯」点灯（②に記念碑）
明治15年	1882年	日本銀行開業	新橋～日本橋間に軌道走る初の馬車鉄道
明治16年	1883年	山県有朋 官報発行	浅草の田を埋立て六区に出店など移転
明治19年	1886年	ノルマントン号事件	内幸町に「鹿鳴館」落成
明治21年	1888年	市制・町村制施行	「皇居・二重橋」完成
明治22年	1889年	大日本帝国憲法発布	「歌舞伎座」開場④
明治23年	1890年	第一回衆議院議員選挙 教育勅語	キリスト教・メジスト教「銀座教会」誕生④
明治24年	1891年	足尾銅山鉱毒事件	神田駿河台「大聖堂ニコライ堂」竣工
明治26年	1893年	小学校祝祭日の唱歌 君が代など制定	「教文館」銀座店開業
明治28年	1895年	下関条約	「ミキモト」創業、1906年現在地へ④
明治32年	1899年		「服部時計店（現・和光）」木挽町で開業
明治33年	1900年	伊藤博文 立憲政友会結成	「天賞堂」洋風2階建て大店舗建立④
明治34年	1901年	八幡製鉄所を建設	「電報通信社（電通）」弥生衛門町創業④
明治35年	1902年	日英同盟締結	「江ノ島電気鉄道」開業
明治36年	1903年		銀座四丁目交差点角地3箇所を新聞社が占有
明治37年	1904年	日露戦争	銀座通りに路面電車開通（東京電車鉄道）
明治43年	1910年	日韓併合条約締結	この頃から東京の市電ラッシュアワー
明治44年	1911年	国産飛行機奈良原式2号機飛行に成功	丸の内に「帝国劇場」開場
			「日本橋」再架橋（石造2連アーチ橋へ）

引用文献

岡本哲志『銀座四百年 都市空間の歴史』第一章P89（講談社 選書メチエ 2006年）  
一般社団法人銀座インフォメーションマネジメント「銀座公式ウェブサイト『GINZA OFFICIAL・明治・大正期の銀座』」

参考文献

岡本哲志『銀座を歩く 四百年の歴史体験』（講談社文庫 2017年）  
鷹野晃『浮世絵と写真で歩く江戸東京散歩』（角川書店 2019年）  
今和次郎『考現学入門』（筑摩書房 編者 藤森照信 ちくま文庫 版 1987年）  
中央区観光協会編集『歩いてわかる中央区ものしり百科』（JTBコミュニケーションデザイン 2018年）

参考ウェブサイト

国立公文書館ウェブサイトより「災害に学ぶー明治から現代へー『不燃都市への挑戦・銀座大火』」